



本弘寺別院
秦野市渋沢 1398-12
TEL : 0463-82-9577
✉ honkouji.wakka@gmail.com

今年は、夏から秋にかけて雨の日が続き、また二週続いて台風が来るなど、農作物も不調だと耳にします。便利な世の中ですと、様々なことが思い通りになると錯覚しがちですが、私は気圧の変化などで頭痛が出たり肩が重くなったりと、農作物同様に自分も自然の一部なんだと改めて気付かされる今日この頃です。

さて、年に一回、お寺から飛び出して外で法話会を行う青空法話を10月18日に実施いたしました。雨が続く中、この日だけはお天気にも恵まれ、いつもと違った雰囲気の中で法話を聴聞させていただきました。



ご院さんによるご法話風景。『湘南平』にて

「人間というものは、間柄が大事である。夫婦・親子・友人・同僚などの間柄によって生かされ支えられているからこそ人間なのです。そのことを忘れて、私がと我を張らず、生かされ、助けられ、許され、我慢されている私でしたと気付かせていただくと、自ずと感動と感謝の気持ちがわいてきます。」というお話をいただきました。

青空の中でのご法話は、私を支えてくれている太陽や空気、大地、多くの自然、動物たちの恵み、そして鬱陶しいときえ思っていた雨にもご恩を感じる事ができました。

11月28日は浄土真宗の開祖親鸞聖人のご命日です。全国のお寺では、この時期に親鸞聖人への“ご恩”を報ずる“講”（あつまり）^{ほうおんこう}報恩講を務めます。親鸞聖人は苦しみ悩む人間の救われる道を求められました。九歳で^{とくど}得度し、その後二十年間にわたって比叡山で仏道修行に励まれましたが、真に求めるものは得られませんでしたが、やがて、苦悩の我々を必ず救うという阿弥陀仏の本願を信じて、ただ念仏することのほかに救われる道はないという^{ほうねんしょうにん}法然上人の教えに出遇われました。以降、法然上人の弟子として、本願念仏の行者として聖人自ら歩まれた、その教えを後世の人々に多く残されました。仏法を聴聞し続けた鈴木章子さんは、「道に迷ったら、たちどまって道を知っている人に尋ねるのが一番」という言葉を残されています。苦悩の多い我々を導いてくださる親鸞聖人へ報恩感謝の気持ちで今年も迎えさせていただきます。ご参詣をお待ちしております。

報恩講のご案内

とき 11月18日(土) 11:00~
ところ 本弘寺別院

✿ご参詣いただける方は、お弁当のご用意がありますので、お寺までお電話(0463-82-9577)またはメール(honkouji.wakka@gmail.com)にてご連絡くださいませ。

こども仏教

ブッダがせんせい

いやなことご縁

ブッダは、^{すべ}全てのことは縁によって起るよと教えているよ。

すべてのことには、^よ良いこともあれば嫌なこともあるよね。良いことや楽しいことだけあればいいけど、いじわるな友だちと出会うことや逃げ出したくなるようなこと、悲しくなるようなこと・・・

生きるなかで、みんなが^{なや}悩んだり苦しむこともあるかもしれない。

ブッダは、いやなこと^{ぜんぶ}も全部受けとめられる心を持つことが大事だよと教えているよ。嫌なことはあっちいけと追いやるよりも、これもぼく・わたしを大きく^{せいちょう}成長させてくれる縁なんだと思うと人生はゆたかになるよ。

みんなの掲示板

ものづくり教室 お仲間募集！！

ある日、法話会にご参加されていた女性が、手作りのアクリルたわしを配ってくださいました。そのアクリルたわしの作り方を教えて欲しい!!とお声から「ものづくり教室」の場がはじまりました。今までに、折り紙で作る蓮の花、しじみの貝を使ったカエルのストラップ・腕輪念珠など、毎月一作品を和気あいあいと作っています。

11月は、和紙でつくる箸置きを作る予定です。予約は不要ですので、以下のお時間にお越しください。ご参加をお待ちしております♪

時間：毎月第一日曜日 13:00~

場所：富鶴浄苑管理事務所

参加費：500円



法話会のお知らせ

- 一、この度のこのご縁は 初事と思うべし
- 一、この度のこのご縁は 我一人の為と思うべし
- 一、この度のこのご縁は 今生最後と思うべし

これは「聴聞の心得」です。

仏法は偉くなるための教えではなく、自分自身に目覚める教えです。ただただ聴かせていただく、聞こえてくる世界です。一緒に聴聞させていただきます。

❖持ち物:お念珠
❖費用: 100円~1000円程度

☞今後の法話会スケジュール

富鶴浄苑 14:00~

11月5日・12月3日

本弘寺別院 11:00~

11月18日・12月18日

ご冥福をお祈りいたします！？

先日、ご葬儀に参列した際のことです。弔電が読み上げられると、皆さん一様に文末に“故人のご冥福をお祈りいたします”と添えられてありました。ニュースでもよく耳にするフレーズですので、お寺に入るまでは、意味もわからず定型文のように考えておりました。しかしながら、浄土真宗の教えや住職のお話を聞きますと、この“冥福を祈る”という言葉がなんとも違和感のある言葉に気がきました。冥福を祈るとは、(冥土(暗闇・どこにいかかわからないあの世)でどうか幸福に過ごして欲しい)という祈りです。浄土真宗の教えでは、阿弥陀さまの救いにより、命終わると同時に お浄土に生まれ、仏様に成らせていただく身です。そうしますと、私たちは、行く先も行く末も決まっている身ですので、祈る必要や祈っていただく必要もないのですね。浄土真宗の教えをよくよく味わっている地域で冥福を祈ると使うと周りから怒られるといった話も聞きます。宗教観が希薄な現代だからこそ、その言葉の意味に興味を持っていただければと思います。もし、弔電をお送りされる際は「お悔み申し上げます」という言葉などがよろしいかと思ひます。

人は無数のご縁の中で生きています。私たちに起こるすべての事象は、ご縁があって与えられたものであり、そのすべてを受けとめ生きていかなければなりません。時になぜこんなに辛いことが起きるのか、と悲観することもあります。ですが、お釈迦様が説かれるように全ては縁によって起こるといふ心持ちでいますと、「自分の力ではどうしようもない、ジタバタしてもしょうがない。」とあらゆる縁をいただくことができました。すると、生きるのが楽になりました。ものの見方ひとつで人生は豊になりますね。 坊守